研究会 記録　1959・9・22（火）1:30～5:00　（人文分館会議室）

Ka　class society と status society 混同したらいかんというてる。

Im　status society というのは class society のように断絶がない，というたてまえだろー。資本主義社会の感じであるアメリカ自身としてはそんなものはないという気持だろ。

Ka　三つないし四つの階層をもつのが普通である。Holy king warrier common slave などの層になっている。征服説には反対しているノルマンコンケストは異民族による征服とはいえんという。双分組織があるときに転化してカイキュー社会になったのでないかと考えている。（Hoggert の説）

Iw　遊牧民が農耕民に侵入していく process を process としてだけとりあげた研究はあるがこの学者はアフリカの専門家だ。

Im　class を King とか Holy とか warrier とかにわけるとり方はワシらと違う。ワシらはもっと広く考えている。ヘイタイなどは貴族などが人民などから吸いあげたもので暮しているから支配階級へ一括して搾取――被搾取，支配――被支配の二重構造を考える。White の考えは priest hood なども上層に奉仕していると考える。State charch はそうである。これは Stewart の Theocratic と Millitary の二本立理論と関係しているがまだよく納得できない。

Ta　White の重層のつかみ方は吾々のと似ている。重層のでき方は生産が上って specialization がおこり，私有財産ができるようになると分解がおこるというように考え，征服説はあまり扱わない。

Im　吾々は二層構造を考えてこれは重層になったときからズーッと今日まで崩れずに続いているとするのだから，新・旧を考えるヨーにもなっている。単層・重層への移り行きはどれでも通るが重層になってからあとは共産主義・資本主義の分れ方がある，とか国際的な方向，一つの世界へむかうような方向があるとみられるのでないか。国際的に国家間に序列が出来たりしてゆく。

Ue　それは二つの方向といわなくてもよいと思う。組織増大の原則ということで説明がつくのでないか。征服もこの process でおこると見れば征服のおこった場所をみてもそれはいえるだろー。インドの英国支配を通じて，英国的組織は大きく成長している。そのように生産単位が大きくなる。しかし世界中に平等にはそれはおこらないかもしれない。不平等にそれがおこれば征服の原動力にならないか。

Im　昔のような領土だけをねらうことにくらべれば，世界はうんと分化がすすんできている。後進国開発などで全体として組織化する方向にあるとみてよい。

Ue　大塚は「共同体の諸概念」において，ギリシャ・ローマ的，ゲルマン的，アジア的で先づける。アジア的というのはイリゲイションパタンである。これはウィットフォーゲルをひっかけているのだがウィットフォーゲルはウェーバにひっかけている。大塚はウェーバとはくいちがっている。ウェーバは生態的見地があって，東アジアと近東あたりの定着をはじめたもの。牧畜をともなったものト農耕とは違うということを認める。共同体は放牧地を含んで小さな共同体に割り当てられている（ゲルンのマルク）これが封建制の基礎だという。

Im・Ka　日本では入会地がある。

Ta　水分配組織がある。

Ue　大塚はマルクスと違って三つを nach-einander の関係でとらえて，単系進化としている。

Ii　マルクスのアジア的共同体に関する説は，いま批判されている。あれは商品流通を零と考えている。しかしインドのボンベイ大学の教授はマルクスの考えは神話的だといっている。インドでは内陸からの塩・金・銀の流入は昔からあって，マルクスの如き segment になった autonomous な社会の発展はあり得なかったと云っている。

Ka　征服説にしろ何にしろ説の本はヨーケあるがどれみても具体的な例がおかしい。ドーモみなノルマンコンケストみたいなのを頭においてるからでないか。

Im　内部説は商業がおこらず clan が重層になったりするという可能性を考えるだけで，いちばん近い形は単層同質での擬似身分制である。しかしこれ以上にはっきりした例がワカラン。商業発達から単層異質になってそれから重層異質になることも考えられる。河口のマーケットなど一種の都市国家みたいなのが出来ないか。

Iw　農業商業だけでもいろんな clan が amalgamation をおこして王サンが出来てという過程がないか，また武力のみでなく宗教的なものも征服というのか。

Im　例えばインカの例では武力も使ったであろーが太陽神が幅をきかせていくのである。super natural なものによる感化。

Ii　インドではヒンドゥーイズムの上にモスレムがのっかっている。Im インドのそれは辺境現象といえないか。パキスタンの方がキツイから一つの宗教が征服していくとき，もう一つの強い宗教にぶつかるときには皆殺しにはできなくなる。ダカラインドのはまたヒンドゥーと回教の接続地帯の現象ともみられる。

Ka　日本では真宗のあるところでは folklore が残っていないと民俗学の人がいっている。真宗には前のものも拂拭する傾向がないか

Im　日蓮もそうでないか，Ue しかし日蓮は教義面では割に寛大だ。

Ka　真宗の方がきつい。

Im　血縁社会から重層になるということも否定しない。あり得るとは考えておいてよい。

異質の問題

Ka　Dobby では Kwakyō が東南アジアに入っている問題を書いているがシナ人の方が一度人間革命を通

っているのでそれを東南アジアで欠けてるものを埋めていくというので異質が進行していくのでないか。

Im アフリカにおけるインド人，その前のアラビア人などもともとその共同体に欠けているところへより進化した種が入っていくことと考えられる。

Ka だから単に交換経済の発展にあるというよりは，それと前に人間革命を経ているということが必要なのでないか。

Im オーストラリアにおいて，より進化した種が侵入するとパッと拡がるというようなことに比して考えている。進化している者の眼から見れば空いているNitzeへ割り込んで埋めていく。

Ii エクホールによると漢民族は回教国では商売できず工人になる。侵入していく相手の社会が進んでいるか，おくれているかで侵入者が異る役割を一つとめることがあり得る。

Im ヨーロッパ人の植民地経営も似ているといえる。奴隷民だけならゴムのplantationなどシャヘン。

Ue 日本の近江商人などやはり人間革命があったと考えるのか。

Im そういう特殊なタレントを小地域ではぐくみヨッタンヤナ。

Ta KwaKyoが東南アジアで組んでやっていくのと同じやり方でいくと回教では駄目ということか。

Ii やはりケンカしても負けるそうですッ

Im 東南アジアは当時，モヒトツ国家としては固まっていなかったから侵入できたので，国境が固かったら侵入もできまい。

Ii 国境とかcultural territoryが強いと。インドではKwakyoはようやく落に入れるだけでインド商法には歯がたたない。インドネシヤ・マレーほどにはいかない。

Im 東南アジアはインドがタイヤーとかシナがタイヤーの辺境にあたるから結局これから先でもアコからモリモリ何かでてくるワケにはイカンヤロ

Ka マラリヤなどがその辺できつくなるというようなことはないのか。（声そ小はあやしい）

Jm 梅棹説なら小さい国がゴタゴタしているという東ヨーロッパと対比している。

Ii Kwakyoは靴屋などヒンドゥーでできない。料理屋もソーダ。そういうところへしか入れていない。

Ue Untachbleなことなら日本にもあるのでないか。

Im モーコでも羊を殺すのはlow castだ。

Ka それは腐敗に通じるからだと思う。今不浄と結びつくだろー。

Ii インドのアンタッチャブルナ耳元葉と日本の特殊部落のそれとかやや共通しているから仏教の影響があるのでないか。

Ue マックスウェーバーは農奴のようなものなしには，そして权力の保護なしには成立しない。だから商業からすぐ産業資本化にはいかんという。だから宗教革命を通す。しかし私は川喜田説の商業革命というのに賛成した。

Im 商業革命の方がWhiteのいう農業革命より大事ヤと思う。しかも農業革命は単層のときもすでにあって商業革命があってから社会が発展すると考える。そこで重層でのupper layer（kingでもpriest hoodでもよい）が保護すると発展しやすい，だからマーケットからの発展という方が考えにくい。

Iw 商業革命にもある種の人間革命は必要なのだロー

Im 商業革命の大事なとこは都市の成立と結びついてそいつが一番血縁原理をぶちこわす原動力になるのだ。ここが吾々に一番大切だ。

Hu 金銀財宝というもののねうちを認めるという心理は何か。surplusが金銀やタカラガイになぜ結びついたか，これは必ずしもバーター制とは結びつかない。タカラガイはそれ自身ねうちがあったと思う。ここに一段パースナリティー進化の問題にかかわるものがある。

Im ホワイトは私有財産と結びつけて，個人のものとしてはタカラガイなども所有できない（血縁社会では）というように考える。

Hu うつくしいとかきれいとかいうことがそれ自身ねうちをもってきた，という心理を考えている。

Im presentには使うだロー

Hu surplus energyがナンカそういうものにシンボライズされる時期を考える。

Ka わたしらのいったところではmiracleによって生じたと思われるものを宝として持っている。吾々の子供の時きれいな小石をとっておいた－そういう心理に似ているらしい。

Iw モロモロの中からタカラガイが特に選ばれるという点へも一段の進化と思う。

Hu 起源を尚えばカラスが光り物を集める心理に近いものだと思うが，それがシンボライズされて財宝ということになるところが問題である。

Im タカラ貝はアジアのもの，

Iw 西アフリカも多い。交換にも使っている。

Ta ヨーロッパでタカラ貝にあたるものはない。

Ka 4ベットはタカラ貝を子宝かさずかるというので持っている。

Hu ヨーロッパは金と宝石でないか。

Ii そういう選択がどうしておこるか，4ベットではサンゴを欲しがってシンジュは欲しがらない。

Ka アジア的商業革命をやったためにでてこない。

Ue アジア的商業革命の性格はなにか，時期はいつか，が問題である。

Ka communityをつくってうえにはバチルスとして働くという感じがする，近代的な商業はそんなもののうえにではなしに，本当にはそんな革命を経なかったヨーロッパや日本に近代商業が育った。

Ue マックスウェーバーはパリヤキャピタリズム賤民資本主義とアジアの商業を呼んでいる。彼は古代には本当の意味の資本主義とはいわん産業資本と労働者があること奴隷を使ったのは本当の資本主義と

はいわない。だから彼は古代にも資本主義があったという云いかたには反対している。

Im 今、商業革命の地盤は余剰があるということが前提だが、購買力を前提とせねばならない。蒙古みたいな所だったらパオの骨組みや銀細工センモンでは喰テイケヘン。population density がなければナラン。チンブクツでもそういうものの上にできあがっている筈だ。この点をうまく表現できないか。

Ii フェルディナンド岡田はやはり social density が重要だと云っている。生産力に関する量らしい。

Ue 今西サンの出した1/10余剰の問題や人口密度については日本の享保元祿には数字がある。畿内で産額がふえている。ふえるにあたっては、シナから来ていた綿なども自力で生産する或る村などは商・工一本になって農業しなくなっている。こんな研究はここ二・三年よくでてきている。

Im 日本の農家ヤッタラいろんなモンいっぱい出してキヨル。パキスタンヤッタラがらんどゥ。

Iw いろんなものつくって売ったり買ったりするというのはどういうカルチャーであるか。例えばラオでは家具はがらんどで何もなくてもいろんな彫刻などはせっせっと作ったりしている、この違いはなにか。別な問題だがある所では芸術が豊かになりあるところでは貧弱だというのは何によるのか。

Ii タカリ族は他の連中と違って絵をよく、うまく書く。他の連中は絵になる概念を持っていないミタイダ。

Ta 職業の分化があればある程商人が多く必要な筈だが、華僑などはそんな関連とは別なのでは一つの社会内でのないか。

Iw アフリカなどだと商人になる種族はきまっている。スワヒリ、マンデインゴとか。東南アジアやシルクロードをつないだ商人もそれぞれ出身が決まっていたのでないか。近江商人も。

Ii エクボールによれば回教で工人になったやつは漢人の典型だったといっている。

Im 岩田説はサンセイ。しかし City の origin の場合、商人は動きまわっているわけにはイカン、この場合はドーナルカ

Iw ソーイウ商人が結局城壁の内へかこわれていった、商業のあとでそれが可能だった。

Im 門前町やナンカ、だんだん参詣人がふえてきたら軒をならべることになるだロー。

Ii マルワリなんか形としては異民族として入っているが地元のものは奢恣をこのまないので農業さえ発達しないところでは必要な構成員として住みつく。(中村元 古代宗教と社会)

Ka 商人として住みつくには従属的であっては困る、放民的性格をもつものが定着すればポテンシャルを発揮すると考えられないか。

Im 商人というものは物も自分では作らんでも買ウテきて売ったらよい訳だ、だから商業革命の前段階として artisan ができなければいかん。

Iw 最初は単層から重層へ、完全なものでなしに前段階的なものでいろいろ例をあげるトルーマがかいているが共生とか部族間に序列ができてくる。次にそれが国家という形に成長する、そこでいくつかの type を考える。征服国家アフリカではサハラ砂漠の遊牧民がスーダン地方の農民とか、そこですでに分化している手工業やキコリを自分の支配下に置く、そして国家ができる、アフリカにはそんな例が多い。農耕社会自体から国家がおこる場合、原理としては先と別だロー。或いは Holy とセキューラーというふうに分化する恰好があるのでないか。マジシャンなどが王になるフレイザーの例が沢山ある。或いは老人と若者のグループの分化ができること。

岩田案

I 単層から重層 (地域原理あらわる)
II 重層同質国家
a 征服国家
b 神政国家
c 商業国家
III 単層異質国家
IV 重層異質国家
V 地域原理の進化
VI 氏族神から職能神、一神教
(パースナリティの問題をどこかへ入れる)

単層	重層同質	異質
農 →	神政国家	
牧 →	征服国家 →	IV
オアシス農 →	商業国家	

(テープ切れ、中断后)いろんな氏族がいて、それがアマルガメイションを起こし、最も有力な首長が王となったとある。王は周囲を合併していって遂に土地の聖なる所有者となった。現在の性格は王は王家系の母系の最年長者ときまっている。王のつぎには queen mother がいて王の助言者、その下に軍の指導者、その下に氏族の首長、その下に軍のオフィサー、その下に王宮のオフィサー(王の椅子をはこんだり、雨傘をさしたりするヤツ)。アシャンティという国の話。これは征服によってないアマルガメイションである。

Kyoto University

インドの西ラバル海岸のコーチンという国，ここではカスト全体をいっくるめてRoyal familyがいてカチンという国を治めているという。この海岸のnativeでなく，この王家はよそから来たのであろー　という。しかし逆に植民の征服とはいえないだろー。やはり農耕社会からの発展といえるのでないか。すると東南アジアにはそんな国が多いのでないか。

商業については，中央アジアにオアシスがうくあって，漢代には都市が栄えた，交易を中心とするまとまりができた。商業的テリトリーの維持のため，王ができてきたと考えられないか。単層異質の例はよく知らないがアフリカはベヌエ川のほとりヌペ族なるものあり(Nadelの書)，この北にラーゴスがあり，北との交通の要路にあたっている。ヌペにはクチギと云うマーケットが発達した。だんだん周辺の農村とは離れて，パースナリティーもまた変ってきて，ここに新しい生活圏が構成された。妻でない男や夫のない女が沢山流入したりする新しい事態などがおこる。必ずしも国家の背景のにかかる都市の萌芽の発達はかなりあるのでないか。

クランの神は動物なんかに結びつくし，トーテミズムに結びつく転能神もクランの転能分化によって生れているだろー。結果として神はクランから離れてくる　こうして，神サンが進化するという事もあろーか。

Im　ホワイトも血縁原理から地域原理へというかモヒトツはっきりしない。血縁原理の崩壊はどこで線を引いているか，単層から重層同質のあいだであまりはっきり線をいかずに考えてオコーか。

Ue　併し，重層異質へ移る時にははっきりしている筈だ。だから新しい原理ができたということでゆるべきで血縁原理は残るのだから。

Ka　evolutionは新しいものが加わるということで見るべきだ。
血縁原理と地域原理の他に三本立として個人の原理を出しておきたい。（それはもっとあとのすかエエという声あり，一同大笑い。）

Ta　ホワイトの考えた段階

1. primitive society
2. agricultural revolution
3. civil society　それから産業革命

ホワイトはエボルーショニズム
エネルギーを考え，product／hour × head　これが増えるとインテグレイションが生じるという。1.は人間の筋肉労働だけ，2.ではdomesticationが入る。エネルギーの飛躍的増大 → 人口の増大。
1.から2.へだんだん移るのでなくて，危機を経て，漸絶的にエネルギーは増大すると考える。人口の増大から生産性増大に支えられた，定着性のmode of lifeそれから人口密度の増加がおこり，分業がおこる。ここで始めて，インテグレイトの為のstate及びステイトチャーチの成立。そしてこの成立とclassの成立とは相則している。

	Polilical	economic system	state charch	
primitive	Kinship grouping 共有財産	sharing		mythology 伝承 動物神
civil	territorial grouping 私有財産 ↓ class	money 原理 マルクスと殆んど同じ money lender ↓ class 商人の発生も分業の時には考えているがcityのことには触れていない。	state － charch ↓ ↓ Physical powar　super natural power いづれもintegrityを保つintegrationの機能と結果 war, class straggle, blood revage, property, punishment monopoly	Theology Sciense written book 人間神

実例はインカ，アズテック，メソポタミヤ，ギリシヤ，エジプト，ローマからヨーロッパ産業革命，アフリカの例も4コットある。

Im'　civil societyとここでいってしまうたらつぎは，ナンニナンネヤロ。
crisisは何であったかは書いてない。人口の増加の問題だがprimitiveではなんで人口が増加したかはワカランと書いてある。

Ta　商人はcivil societyがあってはじめて出ている。市や巡回商人によって労力の浪費はいらなくなる。国家は税金を集めてもまたばらまくが商人は私的にたくわえる一方だからclassがわかれてくる。

Ue　しかしそれで商人が支配階級になるということになるのか。

Kyoto University

声
Ue
Ka
Im
Ka

結局軍隊と同じで支配階級にくっつくのでないか。
川表田の軍事国家からホーリーになったというのはどの程度一般性を与えるか。
中世は暗黒時代であったというのは俗的見解すぎる。state 同志がかたまってしまった時にコミュニティーの窓を広い世界へひらくもの，state 間を打通するものが商業や charch であった。
人間社会を維持するには state だけでなくホーリーもあって二つが伏いているから人間社会がなかなかホロビン，というわけヤナ。オモロイ。
国連は mostly secular partey holy で先方で国際赤十字のように权力だけでは解決しないという，そういう力を考えたい。トインビーのようにサナギから出ているようにホーリーが現われて世をてらすようなものは考えない。またそれがクリスチャニティである必要もない。

Kyoto University